

# NSG

GROUP

# NSG グループ

## 2021年3月期通期決算報告

(2020年4月1日～ 2021年3月31日)

日本板硝子株式会社  
2021年5月13日

**森 重樹**

代表執行役社長兼CEO

**楠瀬 玲子**

執行役常務 CFO

# 目次

1. 2021年3月期通期 決算概要
2. 重要施策の進捗
3. 2022年3月期業績予想
4. まとめ

4ページは本日のご説明内容になります。2021年3月期 通期決算の概要、および年度を通して進めてまいりました各種重要施策の進捗、2022年3月期の業績予想について順にご説明します。

# 連結損益計算書

累計ではCOVID-19影響を受けるも、売上・営業利益とも前回予想を上回り着地。  
Q4では前年比増収増益。固定資産譲渡益で構造改革関連費用の影響を軽減

(億円)	1-3月期 (3ヶ月)			通期累計 (12ヶ月)			前回通期予想 2021年 3月期
	2020年 3月期	2021年 3月期	増減	2020年 3月期	2021年 3月期	増減	
売上高	1,304	<b>1,418</b>	114	5,562	<b>4,992</b>	△ 570	4,900
営業利益	32	<b>51</b>	19	212	<b>131</b>	△ 81	120
営業利益率	2.5%	<b>3.6%</b>	+1.1pt	3.8%	<b>2.6%</b>	△ 1.2pt	2.4%
個別開示項目(COVID-19関連)	△ 22	<b>△ 21</b>	1	△ 22	<b>△ 161</b>	△ 139	△ 140
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益 (△損失)	10	<b>30</b>	20	190	<b>△ 30</b>	△ 220	△ 20
個別開示項目(その他)	△ 174	<b>△ 55</b>	119	△ 218	<b>△ 53</b>	165	
個別開示項目後営業利益 (△損失)	△ 164	<b>△ 25</b>	139	△ 28	<b>△ 83</b>	△ 55	
金融費用(純額)	△ 23	<b>△ 35</b>	△ 12	△ 118	<b>△ 110</b>	8	
持分法による投資損益	△ 1	<b>13</b>	14	11	<b>21</b>	10	
税引前損失	△ 188	<b>△ 47</b>	141	△ 135	<b>△ 172</b>	△ 37	
当期損失	△ 194	<b>△ 28</b>	166	△ 175	<b>△ 163</b>	12	
純損失*	△ 201	<b>△ 30</b>	171	△ 189	<b>△ 169</b>	20	
EBITDA	118	<b>145</b>	27	550	<b>468</b>	△ 82	

前回予想を上回る

Q4では前年比増収増益

固定資産等譲渡益(+70億円)、構造改革関連費用(△107億円)などを計上

2021年5月13日 | 2021年3月期通期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

5ページは連結損益計算書になります。

ご覧の表の左側が1-3月期の3か月間の業績、中央に通期累計の業績、右端が前回第3四半期決算時に公表した通期業績予想になります。

2021年3月期通期における売上高は、第1四半期における急激な需要の減少により、4,992億円と、前期比570億円の減収、また営業利益は131億円と前期比81億円の減益となりました。前回業績予想では、売上高4,900億円、営業利益120億円としていましたが、これを上回って着地することが出来ました。

一方、1-3月の3か月間では、売上高は1,418億円、営業利益は51億となり、いずれも前年を上回ることができました。

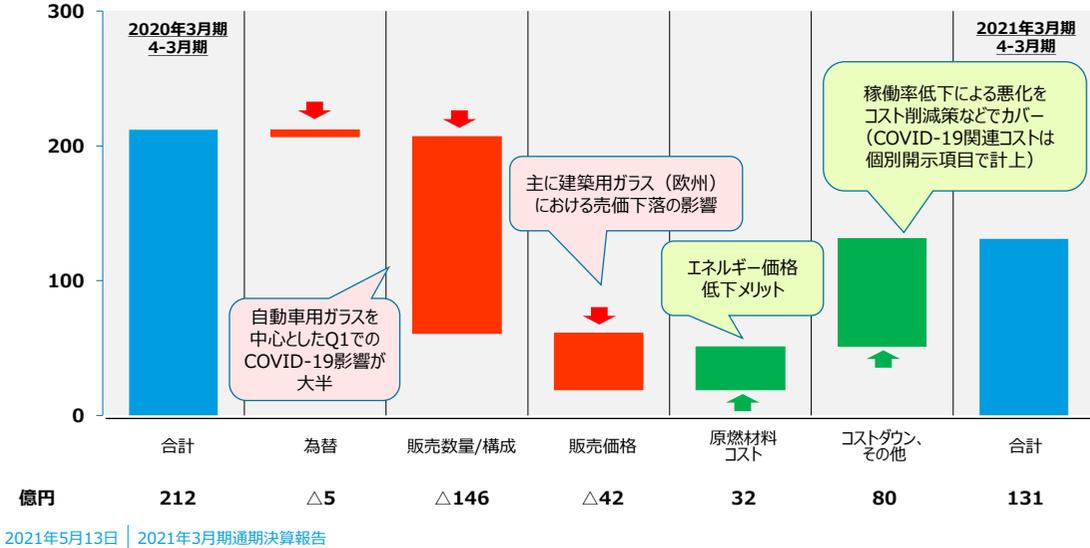
1-3月期の営業利益より下の項目を見ていただくと、個別開示項目(その他)で55億円の損失が出ています。これは、3月30日に公表した土地売却による固定資産譲渡益の70億円によって、構造改革関連費用として第4四半期で計上した107億の費用が一部相殺されたためです。なお、107億円の費用は、本日別途適時開示を行っております通り、事業構造改革に伴う日本板硝子単体以外の人員削減関連の費用として計上したものになります。

この結果、個別開示項目「後」の営業損失は1-3月期では25億円、通期では83億円となりました。

以上により、純損失は累計で169億円となりましたが、その大部分は第1四半期に計上したものです。1-3月の3ヶ月間では30億円の損失となりました。

# 営業利益差異分析 (無形資産償却後 4-3月期累計)

累計ではCOVID-19によるQ1の急激な数量減の影響を受ける



6ページは、通期の営業利益について、前期との差異を説明しています。

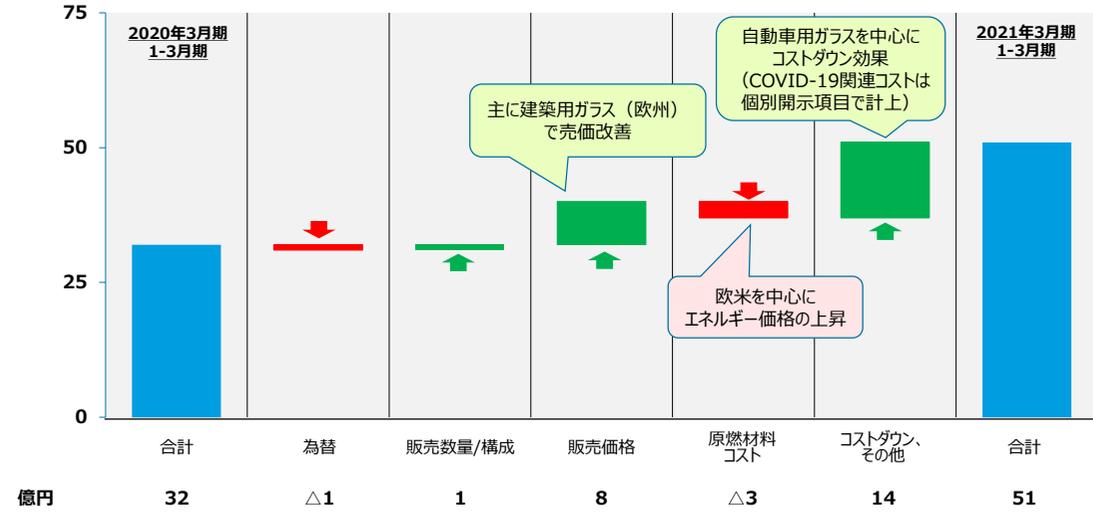
「販売数量/構成」のマイナスは146億円ですが、第1四半期において新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けたことによるものが大半で、特に自動車用ガラス事業が大きな影響を受けました。

「販売価格」は42億円のマイナスで、主に建築用ガラス事業の欧州の価格下落によるものです。「原燃材料コスト」は32億円のプラスで、エネルギー価格の低下などにより、改善しました。

「コストダウン・その他」は80億円のプラスとなり、稼働率低下による悪化をコスト削減効果によってカバーしました。ただし、新型コロナウイルス感染拡大によって生じた設備休止費用などは個別開示項目へ計上しており、この営業利益には含まれていません。

# 営業利益差異分析 (無形資産償却後 1-3月期)

販売価格改善、コストダウンにより、営業利益は前年同期比プラス



2021年5月13日 | 2021年3月期通期決算報告

7ページは、1-3月の3ヶ月間の営業利益について、前年同期との差異を説明しています。「販売価格」は8億円のプラスとなっています。欧州の建築用ガラスでは、今年度に入ってから改善が続き、この四半期で前年比でプラスに転じました。「原燃材料コスト」は、3億円のマイナスとなっており、直近のエネルギー価格上昇の影響を受けています。「コストダウン・その他」では14億円のプラスとなりました。自動車用ガラスを中心にコストダウンの効果が継続して現れています。これらの効果により、前年同期比で増益となりました。

# 個別開示項目

Q4でグローバルの構造改革関連費用107億円計上するも、固定資産譲渡益70億円で一部相殺

(億円)	2020年3月期 4-3月期累計 (12ヶ月)	2021年3月期		
		1-3月期 (3ヶ月)	通期累計 (12ヶ月)	
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)関連※	△22	△21	△161	主にQ1(△115億円)に計上
政府支援による収益	—	3	26	
設備休止等に係る費用	△22	△24	△187	
リストラクチャリング費用	△64	△107	△147	構造改革関連費用等
減損損失/減損損失戻入益	△161	△21	△13	東南アジア・欧州の 建築用・自動車用ガラス
有形固定資産等の売却による利益	11	70	71	土地の譲渡益
係争案件の解決に係る収益	—	—	34	
子会社及びジョイントベンチャーの売却による利益	13	—	7	
その他	△17	3	△5	
<b>個別開示項目 純額</b>	<b>△240</b>	<b>△76</b>	<b>△214</b>	

\* 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のまん延により影響を受ける直接費と回収不能な事業運営コスト、及びそれに関連して政府により支給される補助金を個別開示項目として計上。これらにはCOVID-19により生産活動に従事できない従業員への給与支払や休止設備の維持費用、施設の安全な作業環境整備のために生じた清掃費用などの直接費用を含む。

2021年5月13日 | 2021年3月期通期決算報告

8ページは個別開示項目の内訳になります。

新型コロナウイルス感染症関連費用の純額は累計で161億円ですが、このほとんどが第1四半期に計上されたものです。第4四半期における計上額は21億円でした。

また当第4四半期のその他の個別開示項目としては、先ほど申し上げた通り、構造改革関連費用として107億円、および東南アジア等の固定資産の減損が21億円、国内の土地の売却益70億円等を計上しました。

# 連結貸借対照表



為替影響あり、円換算後の総資産が増加。通期純損失計上により自己資本比率は低下

(億円)	2020年 3月末	2020年 12月末	2021年 3月末	2020年 3月末比増減	2020年 12月末比増減	
<b>資産合計</b>	<b>7,652</b>	<b>7,780</b>	<b>8,250</b>	<b>598</b>	<b>470</b>	増分のうち、過半が為替影響
非流動資産	5,411	5,611	5,750	339	139	
流動資産	2,241	2,169	2,500	259	331	為替影響に加え、期末現預金の増加
<b>負債合計</b>	<b>6,770</b>	<b>7,014</b>	<b>7,452</b>	<b>682</b>	<b>438</b>	為替影響に加え、長短借入金の増加
流動負債	2,004	2,327	2,878	874	551	
非流動負債	4,766	4,687	4,574	△192	△113	
<b>資本合計</b>	<b>882</b>	<b>766</b>	<b>798</b>	<b>△84</b>	<b>32</b>	
親会社の所有者に帰属する持分	736	613	629	△107	16	自己資本金額は12月末より増加だが、自己資本比率は低下
<b>自己資本比率 (%)</b>	<b>9.6%</b>	<b>7.9%</b>	<b>7.6%</b>	<b>△2.0pt</b>	<b>△0.3pt</b>	
ネット借入	3,902	4,267	4,118	216	△149	
ネット借入/EBITDA	7.1x	9.6x	8.8x			
ネット借入/純資産比率	4.4x	5.6x	5.2x			

9ページは連結貸借対照表になります。

2021年3月末のグループの総資産は、8,250億円となり、前期末から598億円増加、12月末時点からは470億円の増加となりましたが、増分の過半はドル、ポンド、ユーロを中心として為替が円安に振れたことによる為替換算の影響です。

資本のうち、親会社の所有者に帰属する持分は629億円となり、前期末から107億円減少しましたが、12月末対比では16億円増加しました。しかし残念ながら自己資本比率は通期の純損失の影響等により7.6%と、前期末比で2ポイント減少、12月末対比でも若干の減となりました。

# 連結キャッシュフロー計算書



キャッシュ節減活動の継続でQ2以降のフリーキャッシュフローは毎四半期プラスを維持。  
Q4は季節要因に加え、資産売却により大幅プラス

(億円)	1-3月期 (3ヶ月)			通期累計 (12ヶ月)		
	2020年 3月期	2021年 3月期	増減	2020年 3月期	2021年 3月期	増減
営業活動によるキャッシュフロー	350	164	△186	305	211	△94
(うち、運転資本の増減)	318	97	△221	87	51	△36
投資活動によるキャッシュフロー	△122	77	199	△569	△256	313
(うち、有形固定資産の取得)	△159	△87	72	△609	△392	217
フリーキャッシュフロー	228	241	13	△264	△45	219
財務活動によるキャッシュフロー	△230	△148	82	182	135	△47
現金及び現金同等物の増減	△2	93	95	△82	90	172
現金及び現金同等物 期末残高				405	535	130

運転資本改善活動の  
効果（前年は3月の  
売上激減により  
運転資本改善）

資産売却により  
投資CFがプラス

Q1を除き毎四半期で  
プラス維持。  
Q4は大幅プラス

2021年5月13日 | 2021年3月期通期決算報告

10

10ページは連結キャッシュフロー計算書になります。

表の左側が1-3月期の3か月間での前年同期、当期の実績と増減、右側が通期累計での前期と当期の実績と増減になりますが、今回は左側の1-3月の動きについてご説明します。

1-3月期の営業キャッシュフローは164億円のプラスとなりました。このうち、運転資本の変動によるプラスが97億円となり、これは継続的な運転資本改善活動によるものです。前年同期からは221億円悪化していますが、前年同期は特に3月の新型コロナウイルス感染拡大で売上が激減したことで売掛金も減少した影響が大きな要因です。

1-3月期の投資活動によるキャッシュフローは、77億円のプラスとなりましたが、これは固定資産売却による収入があったためです。

この結果、1-3月期のフリーキャッシュフローは、241億円のプラスとなりました。、第2四半期以降、損益の改善や運転資本改善プロジェクトの効果もあり、毎四半期でプラスのフリーキャッシュフローを維持できました。

通期累計のフリーキャッシュフローは、第1四半期のマイナス影響が大きく、45億円のマイナスとなりました。

## セグメント情報

(億円)	2020年3月期 通期			2021年3月期 通期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
<b>建築用ガラス事業</b>	<b>2,337</b>	<b>42%</b>	<b>173</b>	<b>2,155</b>	<b>44%</b>	<b>157</b>	<b>△182</b>	<b>△16</b>
欧州	871	16%		852	17%		△19	
アジア	914	16%		772	16%		△142	
米州	552	10%		531	11%		△21	
<b>自動車用ガラス事業</b>	<b>2,810</b>	<b>51%</b>	<b>61</b>	<b>2,452</b>	<b>49%</b>	<b>18</b>	<b>△358</b>	<b>△43</b>
欧州	1,198	22%		1,036	21%		△162	
アジア	671	12%		606	12%		△65	
米州	941	17%		810	16%		△131	
<b>高機能ガラス事業</b>	<b>401</b>	<b>7%</b>	<b>71</b>	<b>368</b>	<b>7%</b>	<b>67</b>	<b>△33</b>	<b>△4</b>
欧州	71	1%		64	1%		△7	
アジア	317	6%		293	6%		△24	
米州	13	0%		11	0%		△2	
<b>その他</b>	<b>14</b>	<b>0%</b>	<b>△93</b>	<b>17</b>	<b>0%</b>	<b>△111</b>	<b>3</b>	<b>△18</b>
<b>合計</b>	<b>5,562</b>	<b>100%</b>	<b>212</b>	<b>4,992</b>	<b>100%</b>	<b>131</b>	<b>△570</b>	<b>△81</b>

2021年5月13日 | 2021年3月期通期決算報告

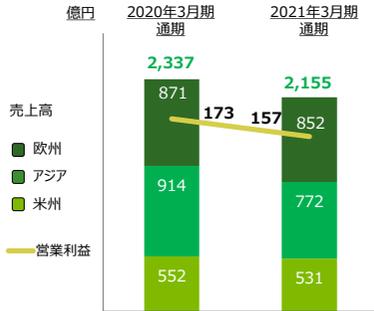
11

11ページでは、事業セグメント毎の通期の売上高および営業利益を示しています。各事業の詳細については次のスライドでご説明します。

# 建築用ガラス事業 前年比



Q1の需要減により累計では減収減益となるも、Q2以降欧州・南米を中心に需要回復。コストダウン効果も業績回復に寄与し、Q4は増収増益



## 欧州 (累計: 減収・減益 Q4: 増収・増益)

- 販売数量、価格は需要の回復に合わせ、Q4でさらに改善
- 操業安定化とコスト削減により、収益性も改善

## アジア (累計: 減収・増益 Q4: 減収・増益)

- 千葉、マレーシアのフロート窯休止に伴い減収だが固定費削減効果、投入コスト減、価格改善等により利益は改善
- 太陽電池パネル用ガラスの出荷はCOVID-19影響をほぼ受けず安定

## 米州 (累計: 減収・減益 Q4: 増収・減益)

- 北米は域内の商業ビル向けは低調だが、太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調。新フロート窯 (オハイオ州ラッキー) がQ3に操業開始。一時的に立ち上げコストが発生
- 南米は好調な需要を受け、Q4は増収増益

	1-3月期(3ヶ月)			通期累計(12ヶ月)		
	2020年3月期	2021年3月期	増減	2020年3月期	2021年3月期	増減
売上高	536	594	58	2,337	2,155	△182
欧州	208	246	38	871	852	△19
アジア	197	189	△8	914	772	△142
米州	131	159	28	552	531	△21
営業利益	33	42	9	173	157	△16

2021年5月13日 | 2021年3月期通期決算報告

12

12ページへ移ります。ここから各事業の業績についてご説明いたします。

建築用ガラス事業の通期の業績は、第1四半期における新型コロナウイルス感染拡大による需要減少の影響により、減収減益となりましたが、第2四半期以降、欧州や南米を中心とした需要回復が継続しており、コストダウン効果も業績回復に寄与した結果、1-3月期は増収増益となりました。

欧州は、通期では減収減益となりましたが、1-3月の3ヶ月間では前年同期比で増収増益となりました。販売数量・価格が需要の回復に合わせてさらに改善し、また操業安定化とコスト削減もプラスに働きました。

アジアは、通期で減収増益となっています。売上高は、千葉とマレーシアにあるフロート窯の休止の影響により前年同期より減少しましたが、営業利益は、休止による固定費削減効果があったこと、太陽電池パネル用ガラスの出荷が感染拡大の影響をほとんど受けず安定して推移したことにより、増益となりました。

米州は、通期で減収減益となりました。北米は域内の商業ビル向けの需要は低調ですが、太陽電池パネル用ガラスの出荷は堅調に推移しています。北米オハイオ州の太陽電池パネル用ガラス向けの新しいフロート窯が昨年11月に稼働を開始しましたが、1-3月期はこれの立上げのコストが発生した影響もあり、減益となりました。

南米の需要は好調であり、1-3月期の前年同期比で増収増益に転じました。

# 自動車用ガラス事業 前年比

Q1でのCOVID-19影響が大きく、累計では減収減益。6月以降の需要回復を受け、Q4では半導体不足の影響を受けるも全地域で増収増益



欧州 (累計: 減収・減益 Q4: 増収・増益)  
 アジア (累計: 減収・減益 Q4: 増収・増益)  
 米州 (累計: 減収・増益 Q4: 増収・増益)

- カーメーカーの生産再開後は年度を通じて生産量が増加
- 自動車生産が全面停止した前年同期（20年3月）を大きく上回る。Q4は半導体不足や、ロックダウン影響があるも増収増益
- 売上高の回復は欧州、中国、南米で顕著。営業利益は全地域での生産量の回復と全社コストダウンに加え、北米、日本を中心に生産性向上も増益に寄与

	1-3月期(3ヶ月)			通期累計(12ヶ月)		
	2020年3月期	2021年3月期	増減	2020年3月期	2021年3月期	増減
売上高	664	716	52	2,810	2,452	△358
欧州	291	315	24	1,198	1,036	△162
アジア	160	172	12	671	606	△65
米州	213	229	16	941	810	△131
営業利益	8	29	21	61	18	△43

2021年5月13日 | 2021年3月期通期決算報告

13ページは、自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業の通期の業績は、第1四半期において需要が激減した影響により減収減益となりました。しかし、6月以降新車用ガラスの需要が回復してきたことで生産量が増加し、1-3月の3ヶ月間では全地域で前年同期比、増収増益となりました。

1-3月期が増収増益となったのは、前年度、特に3月に世界的に自動車生産が停止した状況に対して、大きく立ち直ったことによるものです。一方で、当第4四半期においても、半導体部品不足やロックダウンの影響を受けた地域もあります。

前年同期比での売上高の回復は欧州、中国、南米で顕著になっています。また、営業利益は全地域での生産量の回復と全社コストダウンに加え、北米、日本を中心とした生産性向上も増益に寄与しました。

# 高機能ガラス事業 前年比

累計ではCOVID-19影響を受けるも、Q4は前年を上回る水準に



## 高機能ガラス事業 (累計: 減収・減益 Q4:増収・増益)

- ファインガラスは、COVID-19による影響は限定的。年度後半にかけて回復
- プリンター用レンズは、在宅勤務、オンライン授業向けに需要が増加
- グラスコードは自動車市場の影響を受けるも、年度末にかけて需要が回復
- バッテリーセパレーターの業績は安定的に推移

	1-3月期(3ヶ月)			通期累計(12ヶ月)		
	2020年 3月期	2021年 3月期	増減	2020年 3月期	2021年 3月期	増減
売上高	99	102	3	401	368	△33
営業利益	17	22	5	71	67	△4

14ページは、高機能ガラス事業です。通期では前期比で減収減益となりましたが、1-3月期においては、売上高、営業利益ともに前年を上回る水準に回復しました。

ファインガラスでは、新型コロナウイルス感染拡大の影響は限定的であり、年度後半にかけて回復してきました。

プリンター用レンズの数量は、在宅勤務やオンライン授業向けの需要により、引き続き増加しました。また当社のセルフロック・レンズ・アレイは富士フイルム株式会社様の製品である「チエキ」にも以前からご使用いただいております。目下、巣ごもり需要ということもあって、「チエキ」が欧米を中心に世界中で売れているそうです。こういったことも当社のレンズが好調な要因となっております。

グラスコードは、主に欧州向けの自動車市場の落ち込みの影響を受けていましたが、年度末にかけて需要が回復しています。

バッテリーセパレーターの業績は比較的安定して推移しました。なお、5月10日にバッテリーセパレーター事業の譲渡に関するアナウンスを行いました。譲渡実施は今年8月を予定しています。事業譲渡に関する詳細は別のページで改めてご説明します。

# 重要施策の進捗

2021年3月期の緊急損益対策と並行して、2022年3月期の黒字転換に向けた施策を断行

緊急コスト削減プロジェクト	● 年間で目標とした200億円超の削減を達成
手元流動性	● 投資削減・運転資本の厳格管理継続しキャッシュフロー改善 ● 3月末現預金残587億円、未使用融資枠残749億円。流動性を確保
コスト構造改革	● 人員削減： グローバルで合計2,000人超の人員削減を推進。 ※S16に詳細説明 ● 生産・購買コスト削減： 全社的な見直しに基づき、事業・部署別に支出・経費削減プロジェクトとその目標を設定し実行中
資産・事業売却検討	● 固定資産の譲渡を実施。資金・利益創出により、構造改革関連費用の影響を軽減 ● バッテリーセパレーター事業の譲渡を決定。 ※S17に詳細説明

スライド15ページに移ります。

当期において取り組んだ各種の重要施策の進捗についてご説明します。

まず当期の損益対策として取り組んだ緊急コスト削減プロジェクトについては計画通り進捗し、年間で目標とした200億円を超える削減を達成することができました。

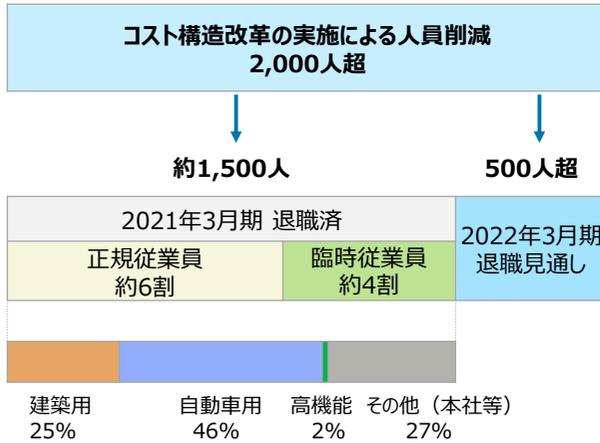
また、設備投資や運転資本も厳しく管理し、キャッシュフローの改善も実施できました。これらの努力もあって手元流動性も安定的に維持できています。

一方、2022年3月期での黒字化に向け、下期から着手したコスト構造改革の一環として、人員削減や生産・購買コストの削減についても全社をあげて取り組みました。詳細は別のスライドでご説明します。

また、資産・事業売却についても、既に公表の通り、土地の売却や、バッテリーセパレーター事業の譲渡を決定しました。これについても別のスライドでご説明します。

# 重要施策の進捗 ① 人員削減

当初計画通り、世界各地において2,000人超の人員削減を実施



2022年3月期に3桁億円以上のコスト改善効果の創出を狙い、事業や地域の市場環境等を考慮しながら、グローバルで取り組みを実施

## 2021年3月期における進捗

- 2022年3月期の退職予定分も含め、退職費用は2021年3月期において引当計上済（通期で約140億円）
- グループ全体で早期退職措置や退職者の非補充を実施

スライド16ページに移ります。

かねてより公表しておりました世界各地での2,000人超の人員削減施策の実施状況についてご説明します。

22年3月期に3桁億円以上のコスト削減効果の創出を狙い、グローバルで取り組みを実施してきました。

この結果、図に記載の通り、約1,500人については3月末時点ですでに退職済となっています。500人超の人員の退職は22年3月期になる見通しですが、これも含め引当については、当初計画通り21年3月期での計上が完了しています。通期累計での引当額は、合計で約140億円になります。

# 重要施策の進捗 ②バッテリーセパレーター事業の譲渡

構造変革の一環として事業ポートフォリオの変革を図る



## 事業の譲渡の目的

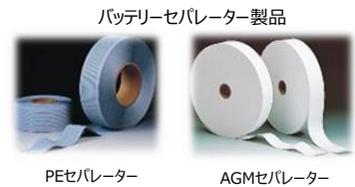
- バッテリーセパレーター事業をさらに発展させ、事業の価値を向上させるため、確固とした事業基盤を有し、NSGグループと信頼関係のあるENTEK社と事業を統合し、ENTEK社の経営の下で事業の強化拡大を図る

## 今後の見通し

- 2021年8月に譲渡完了予定\*
- 2022年3月期上期に個別開示項目として譲渡益約46億円を計上の見通し

\*国内外の競争法その他の法令等に基づき必要なクリアランス・許認可等の取得が完了することが前提

2021年5月13日 | 2021年3月期通期決算報告



17

スライド17ページに移ります。

5月10日公表の通り、今般バッテリーセパレーター事業譲渡の決定を行いました。当社グループとしては、構造変革の一環として、事業ポートフォリオの変革を図っていく方針における施策の一つですが、今回の決定は、バッテリーセパレーター事業のさらなる発展のためには、ENTEK社の経営の下で事業の強化拡大を図ることが最適であるとの判断の結果です。当社は引き続き少数株主として、譲渡後も事業運営のサポートを継続します。

譲渡は今年8月の完了を予定しており、22年3月期上期に個別開示項目として譲渡益約46億円を計上する見通しです。22年3月期の業績予想には既に織り込まれています。

## 2022年3月期業績予想の前提

グループ	<b>新中期経営計画「リバイバル計画24」の目標達成に向けて重要施策を推進 全事業で増収増益計画*</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>安定的な需要回復とコスト構造改革による3桁億円の効果を織り込み増益計画</li> <li>COVID-19影響継続や、原燃材料コスト上昇等の影響を受ける懸念あり</li> <li>個別開示項目にはバッテリーセパレーター事業の譲渡益を含む</li> </ul>
建築用ガラス	<b>安定した需要を想定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>欧州：需給改善を踏まえ価格改善を想定</li> <li>アジア：低調ながら市場は改善基調</li> <li>北米：経済活動再開に伴う市場回復を想定</li> <li>南米：タイトな需給環境を背景にアルゼンチン新窯の建設再開</li> <li>太陽電池パネル用ガラス：数量増加を見込む</li> </ul>
自動車用ガラス	<b>上期に半導体等部品不足の影響はあるも需要は堅調</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>全地域で自動車販売増加と在庫の回復に対応した自動車生産増を想定</li> <li>欧州ではCOVID-19影響で2022年3月期にずれ込んだ新モデルの立ち上げも回復に貢献</li> </ul>
高機能ガラス	<b>全体として改善基調*</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車関連製品は自動車生産動向に連動した回復を想定</li> <li>プリンター用レンズは当面在宅勤務需要増加の恩恵が続く</li> </ul>

\* 譲渡予定事業を除く

18ページに移ります。

ここからは、2022年3月期業績予想のスライドになりますが、まず今回の業績予想の前提からご説明します。

22年3月期は後に説明する新中期経営計画「リバイバル計画24」の初年度にあたりますので、この中期計画目標の達成に向けて、全社をあげて重要施策を推進していきます。

グループ全体としては概ね安定的な需要回復を反映し、全事業で売上高は増収となる計画です。また営業利益についても、人員削減などのコスト構造改革により3桁億円以上の改善効果を織り込んでいます。

一方、新型コロナウイルス感染拡大の影響が今後も続く可能性や、原燃材料コストの上昇などの外部環境のリスクはあるものと考えています。

個別開示項目には、バッテリーセパレーター事業の譲渡益を含んでいます。

事業別に見ますと、建築用ガラス事業では、概ね安定した需要を想定しています。特に欧州では、需給の改善を踏まえ、販売価格がさらに改善する想定です。また南米では、タイトな需給環境が続いているため、一時中止していたアルゼンチンの新窯の建設を再開しました。太陽電池パネル用ガラスは数量増加を見込んでいます。

自動車用ガラス事業では、上期を中心に半導体等の部品不足の影響が懸念されますが、全体としては全地域で自動車生産の増加を想定しています。特に前期の第1四半期は、世界中で自動車生産が激減して大きな影響を受けましたので、今期は前年対比での大幅な数量改善を見込んでいます。

高機能ガラス事業も、譲渡予定のバッテリーセパレーター事業を除いて、全体として改善基調にあるものとみています。

## 2022年3月期通期業績予想

堅調な需要回復とコスト改善により前年比増収増益。純利益は上期の事業譲渡益も含め黒字転換

(億円)	2021年3月期		2022年3月期		増減	
	実績		予想			
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	2,215	4,992	2,500	5,300	285	308
営業利益 (△損失)	32	131	100	220	68	89
COVID-19関連個別開示項目後						
営業利益 (△損失)	△ 96	△ 30	100	220	196	250
個別開示項目 (その他)	△ 8	△ 53	50	50	58	103
個別開示項目後営業利益 (△損失)	△ 104	△ 83	150	270	254	353
金融費用 (純額)	△ 54	△ 110	△ 70	△ 140	△ 16	△ 30
持分法による投資損益	△ 2	21	10	20	12	△ 1
税引前利益 (△損失)	△ 160	△ 172	90	150	250	322
当期利益 (△損失)	△ 172	△ 163	80	110	252	273
純利益 (△損失) *	△ 173	△ 169	70	90	243	259

2021年5月13日 | 2021年3月期通期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

19

スライド19ページに移ります。

こちらが2022年3月期の業績予想になります。

表の左側から、終わった21年3月期の上期、通期実績、今期22年3月期の上期、通期予想と、それぞれ増減、と並んでおります。

今申し上げた通り、堅調な需要回復とコスト改善により、前期比で大幅な増収増益を予想しています。

通期の売上高は5,300億円と、前期比308億円の増。通期営業利益はCOVID関連個別開示項目後で220億円と、前期比250億円増を予想しています。

その他の個別開示項目は上期にバッテリーセパレーター事業の譲渡益を見込んでおります。

その結果、通期の純利益は90億円と、前期比259億円的大幅増となり、黒字転換することを見込んでいます。

# まとめ

## 1. 2021年3月期通期決算

- 通期の売上、営業利益はQ3時の予想を上回って着地。Q1のCOVID-19影響が大きく、累計では減収減益だが、Q2以降は需要回復とコスト削減努力により、各四半期で営業黒字を継続して計上
- Q4（1-3月）の売上、営業利益は、全事業ともにCOVID-19影響の始まった前年比で増収増益。固定資産譲渡益の計上で構造改革関連費用の影響を軽減
- 為替影響あり、円換算後の総資産が増加。通期純損失計上により自己資本比率は低下
- キャッシュ節減活動の継続でQ2以降のフリーキャッシュフローは毎四半期プラスを維持

## 2. 重要施策の進捗

- 2022年3月期の黒字転換に向けたコスト構造改革を推進。  
グローバルで2,000人超の人員削減は計画通り進捗、引当計上を2021年3月期に完了
- 事業ポートフォリオ変革の一環として、バッテリーセパレーター事業の譲渡を決定（譲渡完了は8月予定）

## 3. 2022年3月期通期業績予想

- COVID-19影響の継続や半導体不足等の懸念はあるものの、概ね安定的な需要回復を想定
- 堅調な需要回復とコスト改善により、全事業で前年比増収増益、純利益の黒字転換を計画
- 新中期経営計画「リバイバル計画24（RP24）」の初年度として、構造改革の推進、コスト削減、キャッシュ創出に努め、財務基盤の回復に向け、純利益、フリーキャッシュフローの黒字化を必達する

スライド20ページは今回の決算報告のまとめになります。

22年3月期は、新中期経営計画「RP24」の初年度として、今度とも構造改革を推進し、コスト削減、キャッシュ創出に創出に努め、財務基盤の回復に向け、純利益、フリーキャッシュフローの黒字化を達成する方針です。

## ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

## 補足資料

- 連結損益計算書（四半期別）
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- 四半期別セグメント情報
- 地域別業績
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費
- 2020年11月～2021年5月 主なニュースリリース

# 連結損益計算書 四半期別推移



(億円)	2020年3月期				2021年3月期			
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期
売上高	1,471	1,415	1,372	1,304	919	1,296	1,359	<b>1,418</b>
営業利益(△損失)	88	61	31	32	△6	38	48	<b>51</b>
営業利益率	6.0%	4.3%	2.3%	2.5%	-	2.9%	3.5%	<b>3.6%</b>
個別開示項目(COVID-19関連)	-	-	-	△22	△115	△13	△12	△21
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益(△損失)	88	61	31	10	△121	25	36	<b>30</b>
個別開示項目(その他)	△6	△16	△22	△174	-	△8	10	△55
個別開示項目後営業利益(△損失)	82	45	9	△164	△121	17	46	△25
金融費用(純額)	△35	△28	△32	△23	△24	△30	△21	△35
持分法による投資損益	5	3	4	△1	△4	2	10	13
税引前利益(△損失)	52	20	△19	△188	△149	△11	35	△47
当期利益(△損失)	31	△7	△5	△194	△165	△7	37	△28
純利益(△損失)*	29	△10	△7	△201	△164	△9	34	△30
EBITDA	175	142	115	118	61	127	135	145

2021年5月13日 | 2021年3月期通期決算報告

\*親会社の所有者に帰属する当期利益(△損失)

23

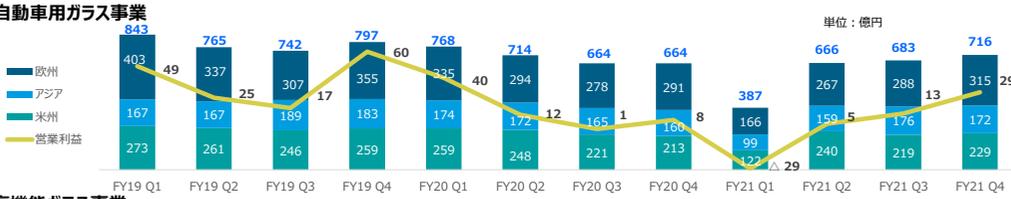
# 事業部門別・地域別売上高及び営業利益 四半期別推移



## 建築用ガラス事業



## 自動車用ガラス事業



## 高機能ガラス事業



2021年5月13日 | 2021年3月期通期決算報告

# セグメント情報（売上高、営業利益）



(億円)	2020年3月期					2021年3月期					増減				
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計
売上高: 建築用ガラス	599	598	604	536	2,337	449	542	570	594	2,155	△ 150	△ 56	△ 34	58	△ 182
欧州	232	221	210	208	871	160	222	224	246	852	△ 72	1	14	38	△ 19
アジア	224	246	247	197	914	192	186	205	189	772	△ 32	△ 60	△ 42	△ 8	△ 142
米州	143	131	147	131	552	97	134	141	159	531	△ 46	3	△ 6	28	△ 21
営業利益	57	41	42	33	173	27	46	42	42	157	△ 30	5	0	9	△ 16
売上高: 自動車用ガラス	768	714	664	664	2,810	387	666	683	716	2,452	△ 381	△ 48	19	52	△ 358
欧州	335	294	278	291	1,198	166	267	288	315	1,036	△ 169	△ 27	10	24	△ 162
アジア	174	172	165	160	671	99	159	176	172	606	△ 75	△ 13	11	12	△ 65
米州	259	248	221	213	941	122	240	219	229	810	△ 137	△ 8	△ 2	16	△ 131
営業利益	40	12	1	8	61	△ 29	5	13	29	18	△ 69	△ 7	12	21	△ 43
売上高: 高機能ガラス	101	101	100	99	401	81	84	101	102	368	△ 20	△ 17	1	3	△ 33
欧州	17	18	16	20	71	13	14	19	18	64	△ 4	△ 4	3	△ 2	△ 7
アジア	80	79	81	77	317	65	68	79	81	293	△ 15	△ 11	△ 2	4	△ 24
米州	4	4	3	2	13	3	2	3	3	11	△ 1	△ 2	0	1	△ 2
営業利益	18	17	19	17	71	14	11	20	22	67	△ 4	△ 6	1	5	△ 4
売上高: その他	3	2	4	5	14	2	4	5	6	17	△ 1	2	1	1	3
営業利益	△ 27	△ 9	△ 31	△ 26	△ 93	△ 18	△ 24	△ 27	△ 42	△ 111	9	△ 15	4	△ 16	△ 18
売上高: 合計	1,471	1,415	1,372	1,304	5,562	919	1,296	1,359	1,418	4,992	△ 552	△ 119	△ 13	114	△ 570
営業利益	88	61	31	32	212	△ 6	38	48	51	131	△ 94	△ 23	17	19	△ 81

2021年5月13日 | 2021年3月期通期決算報告

25

## 地域別売上高及び営業利益

(億円)	2020年3月期 通期			2021年3月期 通期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
欧州	2,140	39%	85	1,952	39%	53	△188	△32
アジア	1,902	34%	131	1,671	34%	128	△231	△3
米州	1,506	27%	89	1,352	27%	61	△154	△28
その他 *	14	0%	△93	17	0%	△111	3	△18
合計	5,562	100%	212	4,992	100%	131	△570	△81

\* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない。

# 為替レート

## 期中平均レート

	2019年3月期				2020年3月期				2021年3月期				2022年3月期
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	見通し
英ポンド	149	147	146	146	141	137	138	138	133	135	136	<b>139</b>	135
ユーロ	131	130	129	129	124	121	121	121	118	121	123	<b>124</b>	122
米ドル	110	111	111	111	109	109	109	109	107	106	106	<b>106</b>	105
ブラジル・レアル	30.4	29.3	29.3	29.4	28	27.6	27.2	26.4	19.9	19.8	19.7	<b>19.7</b>	19.7
アルゼンチン・ペソ	4.7	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用											

## 期末レート

	2019年3月期				2020年3月期				2021年3月期			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
英ポンド	145	148	141	144	137	133	144	133	132	135	141	<b>152</b>
ユーロ	128	132	127	124	123	118	122	119	121	124	127	<b>130</b>
米ドル	111	113	111	111	108	108	109	108	107	105	103	<b>111</b>
ブラジル・レアル	28.6	28.2	28.5	28.3	28.3	26.0	27.1	20.8	19.9	18.7	19.8	<b>19.1</b>
アルゼンチン・ペソ	3.94	2.84	2.93	2.53	2.53	1.88	1.82	1.68	1.53	1.38	1.22	<b>1.20</b>

## 為替感応度

他の前提に変動がない条件で、為替レートが他の通貨に対して1%円高になった場合の影響額

	2020年3月期	2021年3月期
資本	31.0億円の減少	31.0億円の減少
当期損失	1.0億円の改善	1.0億円の改善

## 減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)	2020年3月期 通期	2021年3月期 通期	2022年3月期 見通し
<b>減価償却費</b>	<b>348</b>	<b>358</b>	<b>350</b>
<b>資本的支出</b>	<b>670</b>	<b>433</b>	<b>290</b>
通常投資	257	190	
戦略投資、他	413	243	
<b>研究開発費</b>	<b>90</b>	<b>83</b>	<b>90</b>
建築用ガラス事業	27	23	
自動車用ガラス事業	26	23	
高機能ガラス事業	9	9	
その他	28	28	

## 2020年11月～2021年5月 主なニュースリリース



2020年11月12日	日本板硝子、米国の太陽電池パネル用ガラス新工場、稼働開始
2020年12月29日	事業構造改革に伴う早期退職者優遇措置の実施に関するお知らせ
2021年1月13日	CDPより「気候変動 A-」評価を取得
2021年1月15日	抗ウイルスガラス「ウイルススクリーン®」を豊島区（東京都）へ寄贈
2021年2月4日	個別開示項目収益および個別開示項目費用の計上ならびに通期業績予想の修正に関するお知らせ
2021年2月19日	抗ウイルスガラス「ウイルススクリーン®」がSIAA認証を取得
2021年3月5日	防災防犯ガラス「ラミペーンシェルター™」を墨田区（東京都）へ寄贈
2021年3月17日	ゾルゲル法によるガラスへの抗菌・抗ウイルスコーティングの開発に成功
2021年3月30日	日本国内（単体）における早期希望退職者の募集の結果に関するお知らせ
2021年3月30日	固定資産の譲渡および個別開示項目（収益）の計上に関するお知らせ
2021年4月15日	国内初、耐熱強化ガラスJIS認証を取得した防火ガラスの新発売について
2021年5月6日	内部通報制度認証（自己適合宣言登録制度）取得のお知らせ
2021年5月10日	バッテリーセパレーター事業の譲渡に関するお知らせ

**NSG**  
GROUP